

日本文を英訳するのではなく『今喋れる英語で状況を伝える』とは・・・

例えば下記の状況を想定してみてください。

『この前の日曜日、友人と二人で東京ドームに野球を観に行った時の事です。その友人が私達二人のチケットを持っていましたが、それを家に置き忘れて来てしまったのです。彼は急いでチケットを取りに自宅まで引き返しました。そのことで結局試合の後半しか見れませんでした。試合後、彼のおごりで夕食を食べて帰りました。』

この文章をそのまま英訳するのではなく、この状況を伝える表現を英語で作って行きます。

一緒にやってやってみましょう

まず、今現在の自分の英語力で表現できそうなレベルの日本語でこの状況を表現します。これが『日本語の段階で下処理をする』という事です。そもそも我々日本人が日本語で考える文章はとてもレベルの高い複雑な表現をたくさん含んでいますし、内容を伝えるだけなら省略できる事も多く含んでいますのでそれをシンプルな日本語の文章にする作業です。

例えば、下記のような単文6つに下処理してから英語で表現します。

- 1) この前の日曜日、友人と二人で東京ドームに野球を観に行った。
- 2) 彼(男性と仮定)は私達のチケットを家に置いて来た。
- 3) 彼は家にチケットを取りに戻った。
- 4) 私たちは試合の半分だけ観る事ができた。
- 5) 試合の後、食事をしに行った。
- 6) 彼が全額支払った。

次にこの短文を英語で表現していきましょう。

- 1) I went to Tokyo Dome to watch a baseball game with my friend last Sunday.
- 2) He left our two tickets at his home.
- 3) He went back to get the tickets.
- 4) We could watch only half of the game.
- 5) We went for dinner after the game.
- 6) He paid all of the bill.

これらの文章を適当な接続詞でつないで完成です。

I went to Tokyo Dome to watch a baseball game with my friend last Sunday. However, he left our two tickets at his home. He went back to get the tickets, so we could watch only half of the game. We went for dinner after the game and he paid all of the bill.

いかがですか？これなら出来そう・・・と思いませんか？

ただ、会話ですのでそんなに時間をかけるわけにはいきません。スポーツや楽器の練習のように何度もこのような練習を繰り返して最終的には『日本語での下処理』プロセスを頭の中で素早く出来る様にするのです。さらに勉強を続けることで使える語彙や言い回しが増えて行けば、伝えたいニュアンスや気持ち、ジョークなども織り込んでいける様になると思います。そのレベルまで達すると『日本語での下処理』プロセスは自然に必要なくなっていくでしょう。